



マンドリン通じ 人の輪広がる

「水と緑と詩のまち」をキャッチフレーズとする本市は、偉大なる詩人萩原朔太郎を生んだ詩情あふれるまちです。本年は、朔太郎の生誕120年に当たり朔太郎が愛した楽器のマンドリンにちなんで、このマンドリンフェスタを開催しました。本市を、文化活動が盛んで活気あるまちにして、全国の皆さんにも、本市の魅力を知ってもらいたいと思います。

期間中は、マンドリンの演奏会やコンクール、また街角でのミニコンサートを開きました。マンドリンの魅力を実感できた2日間になったのではないかと思います。

このように盛大に開催できましたのも、本日ご来場いただいた皆さんをはじめ、全国からお越しくださいました出演者の皆さん、また実行委員会や、協賛・後援をいただきました関係団体のご尽力のたまものであり、心から感謝とお礼を申し上げます。

マンドリンフェスタを通じて、「人の輪」が大きく広がったことを何よりもうれしく感じています。
(前橋マンドリンフェスタ2006コンクール表彰式、10月29日、市民文化会館)

ふれあい広場

まえばし シティフラッシュ



萩原朔太郎生誕百二十周年で創設された「前橋文学館賞」の贈呈式が、十一月五日、同館で行われました。公募した詩と映像二部門の入賞者へ高木市長から表彰状を授与。受賞作品の披露もあり、文化の秋を堪能しました。

詩と映像に文学館賞贈呈



祭典で楽しい交流

全国ボランティアフェスティバルぐんまが11月3日・4日、本県各地で開かれました。総合福祉会館では4日、ふれあい広場が行われ、活動を紹介する展示のほかボランティアの皆さんが屋台を出店。家族連れなどでにぎわいました。

日ごろの訓練披露

10月29日、県JAビルで消防秋季点検が行われました。姿勢・服装点検の後、消防隊員と団員が一条乱れぬ分列行進や一斉放水などを披露。見事な日ごろの訓練成果に見物人からは大きな拍手が送られていました。



総社地区

子どもみこし 元気に力強く

総社町新田で十月二十九日、子どもみこしが町内を練り歩きました。毎年この時季に子ども交通安全や家内安全を祈願し行う行事。
そろいの法被に身を包んだ四十人の子どもたちは、神事の後、「わっしょい、わっしょい」と元気に掛け声を上げ町内へ。沿道では多くの人が家や店の外に出て温かい声援を送りました。
吉田義雄自治会長は「今後も地域に残る伝統行事を通して世代間の交流や地域のつながりを深めていきたいですね」と話していました。



文化祭を開催し つながりを図る

東地区



十月二十八日、二十九日の二日間、東箱田後家町公民館で文化祭が行われました。趣味を通して住民交流を図る催しで今年で三回目です。
子どもからお年寄りまで四十五人が出展し、手芸品や張り絵、絵画、彫刻など百点あまりの自信作がずらり。訪れた人に茶菓子が配られ、お互いの作品にまつわるエピソードなどを語り合いながら、楽しい一日を過ごしました。
石坂政夫自治会長は「町は輪が大切。文化活動を通じ人と人のつながりを大切にしたいですね」と話していました。



「毎日介護賞」県内優秀者
田部井 康夫さん(59)
石関町

みんなに送られた「エール」

「毎日介護賞」の県内優秀者に選ばれた。二十五年にわたり、認知症高齢者の介護と、家族の支援活動に取り組み、いることが高く評価された。「わたし個人の賞ではあり

ません。施設スタッフやボランティアなど、みんなの活動全体にエールを送っていたのだと考えているんです」
大学卒業後、都内で働いていたが、父親の病気で本市に帰郷。友人の医師から全国初の認知症高齢者民間デイサービスセンター設立準備に誘われ、開設後はスタッフとして働いた。それ以降、認知症高齢者介護に尽くし、平成十一年、通所介護事業所で管理者に。「認知症の人と家族の会」県支部代表も務めている。
「認知症の人も程度はそれぞれ。よく、子どもにも帰ると

言われますが、豊かな経験、長い人生の重みは失われません。特に、初期のうちは得意分野で、普通の人に勝る人が多いでしょう。偏見を持たずに接してほしいですね」
母親を介護した経験があるが、優しくできず落第だったと振り返る。
「以前より、アルツハイマー病も初期に発見できるようになり、進行を遅らせる方策も開発されつつあるそうです。わたしたちも施設でのケアや家族への支援をより幅広く深くし、質を変えていかなければ」と、意欲を燃やしている。